



## 信頼の獲得

この正月、しばらく音信が途絶えていた友人と連絡がとれ久しぶりに盃を傾けながら旧交を温めた。畜産の生産・流通のプロであるが、数年にわたる“地獄”の苦しきから這い出し、顔を見せてくれたものである。話は政治経済から農業まで多岐に及んだが、今年の日本の課題は「信頼の獲得」で二人の意見は一致した▼「信任という大きな力を得て、今年は、さらに大胆に、さらにスピード感をもって、改革を推し進める。日本の将来を見据えた『改革断行の一年』にしたい」というのは、安倍総理の年頭所感である。ここには昨年末の総選挙での五二・六六%という戦後最低の投票率、自民党得票率は投票権のわずかに二〇・七%にすぎないことに対する謙虚さのひとつかけられない▼東日本大震災、放射能汚染等により、避難先や仮設住宅で厳しい冬を過ごす人々を思いやっただうえで、「本年は終戦から七〇年という節目の年に当たります。・・・この機会に、満州事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び、今後の日本のあり方を考えていくことが、今、極めて大切なこと」というのは天皇の新年にあたっての“ご感想”である。現場に寄り添ったあたたかいお言葉であると同時に実に的確な歴史認識である▼日本は多くの問題を抱え重大な局面に立たされているが、経済政策一辺倒では国際的緊張と格差拡大を増幅させるだけである。形骸化した民主主義を悪用しての“経済ゴーマニズム”に展望はない。現場重視の眼差しと適確な理解を踏まえて、国民との信頼関係を取り戻していくことが今、何より大事である。(土着菌)